

2013 年 11 月 1 日
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦
担当ワーキンググループ主査 早瀬 隆司

スリランカ国 新ケラニ橋周辺交通改善事業
(協力準備調査(有償))
ドラフトファイナルレポートに対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2013 年 10 月 11 日(金) 14:02～17:13
- ・場所：JICA 本部(会議室：1 階 111 会議室)
- ・ワーキンググループ委員：作本委員、谷本委員、二宮委員、早瀬委員、松下委員、米田委員
- ・議題：スリランカ国新ケラニ橋周辺交通改善事業準備調査に係るドラフトファイナルレポートについての助言案作成
- ・配付資料：
 - 1) Draft Final Report (DFR)
 - 2) Environmental Impact Assessment (EIA)
 - 3) Draft Resettlement Action Plan (RAP)
 - 4) スコーピング案助言対応表
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010 年 4 月)

全体会合(第 41 回委員会)

- ・日時：2013 年 11 月 1 日(金) 14:30～17:23
- ・場所：JICA 本部 113 会議室

上記の会合にて助言を確定した。

助言

全体事項

1. 現在検討中の交通計画の全体像が明らかになった際には、公共交通機関との役割分担など、計画の内容との整合性が保たれるよう、十分配慮すること。
2. 原子力庁 (AEA: Atomic Energy Authority) (放射性物質の保管施設を含む) の移転と放射性廃棄物の移送の必要性について、本架橋事業との関連や緊密度をきちんと DFR に記述すること。

スコーピング

3. DFR 12-14 ページの本文の 1 行目、2 行目の記述とスコーピング・マトリックスの評価の統一を図ること。
4. 事業対象地の緑化対策の積極的な実施を行うこと。

環境配慮 (汚染対策、自然環境等)

5. DFR の 12.3 の Recommendation においては、クラクション乱用対策のみならず、整備不良車対策についても記載すること。
6. 今後の交通量の増加を勘案すると、常時の大気汚染及び騒音モニタリングの重要性が増していくことが想定される。その重要性について、12.3 Recommendation の項目に追記すること。
7. AEA の移転に伴う環境影響について、DFR の Executive Summary や 12 章 Environmental Impact Assessment にもわかりやすく記載すること。
8. AEA の移転に関し、「放射性物質は鉛製の二重の密閉容器に入れられ厳重に保管されているため、既存施設に付着していることはほとんどないと考えられる。従って既存建物の取り壊し時に放射性廃棄物が生じることは予想されていない」、「既存施設の取り壊し前に大気、土壌、建材の放射性物質の調査を行い、汚染がなければ、解体廃材は自治体の指定する処分場に廃棄される。」(どちらも DFR 13-31 ページ) との記述は、慎重に行うべきである。既存の AEA 施設の取り壊し方や放射性廃棄物の運搬方法等について、関連する国際的な基準及び国内法に基づき慎重に実施すべきことの重要性を、DFR に記載すること。
9. 表 12.2.6 の Flora, Fauna and Biodiversity (DFR 12-21 ページ) の mitigation measures について、伐採時には野生動物への影響が可能な限り少なくなるよう配慮する、工事に伴う非意図的外来種導入防止について啓発を行う、など、EIA と整合性を取りつつ現実的に記述すること。

ステークホルダー協議・情報公開

10. JICA の異議申し立て制度についても、効果的な方法を検討し周知すること。
11. Focus Group Discussion について、今後、実施の内容をできるだけ詳細に記録すること。

その他

12. EMP について、緩和策の実施・観察の結果生じる不適合への対応の流れを、時間軸も含め明確に示すこと。

以 上